

練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画推進委員会

福祉のまちづくり部会

次期地域福祉計画の福祉のまちづくりに関する
施策の方向性について 意見まとめ

令和元年 7 月

1 ユニバーサルデザインに配慮した

まちづくりを進める

検討にあたって区から提示された重点取組項目

- 1 鉄道駅や周辺のバリアフリーを充実させる
- 2 使いやすい公共施設を増やす
- 3 だれもが安心して使える・気軽に行ける身近な民間施設を増やす

意見まとめ

- 1 ハード・ソフトの両面から総合的にバリアフリーを推進することが必要である。
- 2 高齢者、障害者、乳幼児連れなど様々な当事者による点検などを通じて、利用者のニーズや課題を蓄積し、改善につなげる仕組みが必要である。
- 3 区民の暮らしに欠かせない様々な施設が、だれもが安心して利用できるものとなるためには、区民、事業者、区の連携と協力を一層進めることが重要である。

【鉄道駅や周辺のバリアフリーについて】

鉄道駅については、エレベーター整備による段差解消などに加えて、様々な利用者がより安全、円滑に駅を利用できる経路確保などについて、ハード・ソフトの両面から対策を進めていくことが必要である。

視覚障害者が鉄道駅を円滑に利用するための経路を確保してほしい。そのためには、駅員による声かけ、他路線への乗り継ぎ経路のバリアフリー化、券売機や有人改札を利用する視覚障害者と晴眼者の動線の錯綜(さくそう)への対応などが必要である。

エスカレーターの片側歩行によって片麻痺の方や子ども連れの方などが怖い思いをしている。適正な利用を普及させて欲しい。

視覚障害者誘導用ブロックは、エレベーターや階段までは整備されているが、エスカレーターにつながっていない。視覚障害者の多くは日常的にエスカレーターも利用しており、対応の検討が必要である。

【区立施設、区立公園のバリアフリー整備について】

全ての人々が利用しやすい区立施設や区立公園となるよう、利用者の立場から整備を進めることが必要である。様々な利用者のニーズを把握し、バリアフリー整備に取り入れて欲しい。

聴覚障害者が必要な情報を得られる環境整備のため、警報や館内放送等の音声情報と合わせて、文字や光など視覚情報を提供する設備の導入を進めて欲しい。

施設や設備のバリアフリー整備後に、使いやすさや利用状況等の点検や検証を行い、更なる改善につなげる仕組みづくりが必要である。例えば、区の設備の破損等を見つけた区民がスマートフォンアプリから投稿できる「ねりまちレポーター制度(通称ねりレポ)」について、積極的な周知、活用を進めて欲しい。

スポーツ施設の改修等に当たっては、だれもが身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりをハード・ソフトの両面から進めて欲しい。車椅子スポーツだけでなく、視覚障害者のテニスや卓球などにも対応できる開かれた施設とすべきである。

区立施設の管理委託業者や指定管理者に対しては、バリアフリー設備の維持管理や障害のある利用者への対応を適切に行うよう、必要な情報提供や職員研修などの仕組みが必要である。

【民間建築物のバリアフリー促進について】

医療施設については、施設や設備のバリアフリー整備に加えて、障害者の診療・入院時の対応を充実することも重要である。例えば、視覚障害者が検査等で院内を移動するときに適切な案内誘導があるなど必要な配慮が提供されるよう働きかけて欲しい。

既存施設については、構造的にバリアフリー化が困難であっても、ソフトの工夫次第で円滑に利用ができる場合がある。建築ストック活用の観点から、バリアフリーの基準にとらわれず柔軟な対応を検討して欲しい。

2 多様な人の社会参加に対する理解を促進する

検討にあたって区から提示された重点取組項目

- 1 学び合いで、個性を伸ばし、感性を育む
- 2 利用しやすい情報や案内で安心・快適な生活を支える
- 3 やさしいまちづくりの取組を広げる

意見まとめ

- 1 子ども達への心のバリアフリー教育は、対象年齢を拡大し、段階的に取り組んでいくことが必要である。
- 2 ユニバーサルデザインを学ぶ場は、学校の中だけではなく、地域で、だれもが学べる機会が必要である。
- 3 だれもが社会参加が可能となるよう、障害の有無や内容に関わらず、同じ情報が得られる取組を進めるべきである。

【ユニバーサルデザインの理解について】

心のバリアフリー教育については、単発の授業ではなく、連続性のある仕組みがあるとよい。段階的に理解し、つながっていく教育が重要である。

手話を通した心のバリアフリー教育の進め方を区や学校と一緒に考えていけるとよい。

ユニバーサルデザイン体験教室は、子ども達と共に保護者も理解を広げる場となるとよい。知識だけではなく、気づきや行動についても体験できるとよい。

民間の事業者や社会福祉協議会等でも、子ども達が障害者や高齢者への理解を深める講座を行っている。ユニバーサルデザインの考え方を統一して事業を行うとよい。

ユニバーサルデザイン体験教室は、学校の中だけではなく地域でも行うとよい。

ユニバーサルデザインに関する研修や資料等については、区民や事業者等が活用できる手段を検討して欲しい。

道に迷ったり、困ったりしていることをうまく人に伝えられない人もいる。困っている人への、声かけや行動へのきっかけとなるような取組をしてほしい。

【わかりやすい情報提供について】

障害者に対する情報保障が少なく、現状は、我慢をしている部分が多い。障害者の社会参加が可能になる社会へと変革して欲しい。

駅や街中では、声による情報提供に加え、文字や映像を活用することで、聴覚障害者、難聴者、あるいは高齢者でも見れば分かる案内や誘導の方法を増やして欲しい。

区からの情報提供について、ホームページだけでなく、高齢者や障害者に配慮し、視覚情報、聴覚情報等の情報保障に配慮して進めて欲しい。

【やさしいまちづくりについて】

商店街に期待するバリアフリー化を区から提案して欲しい。商店街としてもやさしいまちづくりを実践したいと考えている。

気軽に実践できるバリアフリーの取組を案内する冊子等を、商店街会員に配布して欲しい。

3 他の施策に関連するご意見

【区民との協働と地域の支え合いに関すること（施策1）】

区民の主体的な活動を拡大するため、高齢者の健康づくりや認知症予防など、活動できる場の充実が必要である。

福祉のまちづくり部会員名簿

	区分	氏名	フリガナ	所属団体等
1	学識経験者	高橋 儀平 (部会長)	タカシ キヘイ	東洋大学名誉教授
2	学識経験者	植田 瑞昌 (副部会長)	ウエダ ミチヨ	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害工学研究部流動研究員
3	事業者団体	岡崎 章臣	オガキ アキト	東京建築士会練馬支部
4	事業者団体	青木 伸吾	アキ シンゴ	介護サービス事業者連絡協議会住宅改修部会
5	事業者	長田 裕太郎	ナガタ ユウタロウ	西武鉄道株式会社
6	事業者	村里 誠	ムラサキ マコト	東京地下鉄株式会社(東京メトロ)
7	事業者	草深 玲安	クサカベ リョウアン	東京都交通局
8	地域活動団体	仲田 守宏	ナカダ モリヒロ	練馬区商店街連合会
9	地域活動団体	千葉 智也	チバ トモヤ	特定非営利活動法人手をつなご
10	福祉関係団体	赤坂 静夫	アカサカ シズオ	練馬区老人クラブ連合会
11	福祉関係団体	鴨治 慎吾	カモジ シンゴ	練馬区身体障害者福祉協会
12	福祉関係団体	的野 碩郎	マノ シノブ	練馬区視覚障害者福祉協会会長
13	福祉関係団体	浦田 成幸	ウラタ ナリユキ	練馬区聴覚障害者協会
14	福祉関係団体	福山 祥平	フクヤマ ショウヘイ	練馬手をつなぐ親の会
15	福祉関係団体	轡田 英夫	ウツダ ヒデオ	特定非営利活動法人練馬精神障害者家族会

福祉のまちづくり部会 開催経過

回	開催日	検討項目
第1回	令和元年6月21日	<ul style="list-style-type: none"> 次期練馬区地域福祉計画の策定について 福祉のまちづくりに関する現状と課題 検討内容の整理 スケジュール
第2回	令和元年7月17日	<ul style="list-style-type: none"> 施策の方向性について 推進委員会への報告について